

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第31号

剣道だより (KENDO Nagasaki)



剣道最高位「範士八段」昇格及び全剣連理事に選任・・・灰谷達明 県剣道連盟会長

剣道最高位「範士八段」に灰谷達明長崎県剣道連盟会長が昇格しました。5月に京都市であった審査会では全国12人が範士に昇格しました。全国で剣道有段者が190万人中、八段は779人でうち範士は168人です。今までの地域社会への功績や学校剣道及び少年剣道または社会人剣道への功績が全日本剣道連盟から高く評価された結果だと思えます。

灰谷範士は6月19日(月)に開催された全剣連定時評議委員会及び理事会において新役員理事として選任されました。

灰谷範士は「稽古の環境が必ずしも恵まれていない地方にあっても地道にまっとうに貫いていけば夢はかなう」と語っている。これからは長崎県のみならず全剣連の役員として活躍されることと思えます。



灰谷達明 長崎県剣道連盟会長

報告(1)・・令和5年度全国高等学校定時制・通信制体育大会 剣道競技 日本一

男子個人 優勝 中山敬心(佐世保工業 定時制)

令和5年8月7日(月)東京都日本武道館にて標記大会(男女団体戦及び個人戦)が開催され、本県からは男子個人の部に中山敬心(佐世保工業高校)、松山 翔(佐世保中央高校)が出場しました。男子個人では全国から84名の代表選手が出場し、中山敬心(佐世保工業高校)が見事優勝を果たし日本一の栄冠に輝きました。(全国定時制通信制剣道大会結果詳細は県連ホームページに掲載)

男子個人戦結果

- 優勝 中山敬心(佐世保工業高校・長崎)
- 2位 最上羽咲(横手高校・秋田)
- 3位 平岡龍河(雄峰(通)高校・富山)
- 3位 田中 仁(さくら国際高校・福岡)



試合経過

- 【決勝戦】**
○中山敬心(佐工定)コ一 最上羽咲(横手・秋田)×
- 【準決勝戦】**
○中山敬心(佐工定)メコ一 平岡龍河(雄峰(通)・富山)×
- 【5回戦】準々決勝戦**
○中山敬心(佐工定)コメ一 齋藤天真(つくば開成・長野)×
- 【4回戦】**
○中山敬心(佐工定)コメ一 田中瑠音(五所川原・青森)×
- 【3回戦】**
○中山敬心(佐工定)コメ一 森本竜海(鳥城・岡山)×
- 【2回戦】**
○中山敬心(佐工定)メコ一 高橋昂生(修悠館・神奈川)×
×松山 翔(佐世保中央)一メ 滝沢歩夢(堀之内・新潟)○



報告(2)・令和5年度全国高等学校体育大会 剣道競技

男子個人 3位 戸田優人(長崎南山)、女子団体 島原高校ベスト8

標記大会が令和5年8月3日(金)~6日(日)北海道帯広市・よつ葉アリーナ十勝(帯広市体育館)で開催され、本県からは男子団体・島原高校、女子団体・島原高校、男子個人・戸田優斗(長崎南山)、水口 快(長崎南山)、女子個人・畚田有亜(島原)、山浦未羽(西陵)が出場しました。男子個人で戸田優斗(長崎南山)が見事3位入賞を果たしました。女子団体で島原高校がベスト8、男子団体では前回優勝の島原高校は残念ながら予選敗退でした。

(全国高等学校剣道大会結果詳細は県連ホームページに掲載)



女子個人戦結果

試合経過

- 【3回戦】 ×山浦未羽(西陵) -延コ 岡田萌花(丹原) ○
- 【2回戦】 ×石原花和子(日大高) -延ツ 山浦未羽(西陵) ○
○平瀬瑠愛(清明学院) 延メー 畚田有亜(島原) ×
- 【1回戦】 ×山口珠侑(白鷗大足利) -メ 山浦未羽(西陵) ○

女子団体結果

【準々決勝】ベスト8 (優秀選手賞) 畚田有亜(島原)

- 守谷(茨城県) 2-1 島原(長崎県) ×
- 決勝トーナメント 1回戦
- 島原(長崎県) 2-1 小山(栃木県) ×
- 【予選リーグ】 2勝0敗 リーグ1位 通過
- 島原(長崎県) 3-1 北海道栄(北海道) ×
- 島原(長崎県) 1-0 奈良大附属(奈良県) ×

男子団体戦結果

- 【予選リーグ】 1勝1敗 リーグ2位
- 島原(長崎県) 1-0 龍谷富山 ×
- ×島原(長崎県) 1-2 大社(島根県) ○

男子個人戦結果

3位(優秀選手賞) 戸田優人(長崎南山)

試合経過

- 【準決勝戦】
- 守安泰輝(福大濠) メー 戸田優人(長崎南山) ×
- 【準々決勝戦】
- 戸田優人(長崎南山) メー 井上康太郎(琴平) ×
- 【4回戦】
- 戸田優人(長崎南山) メー 大洲卓真(札幌日大) ×
- 【3回戦】
- ×橋本陸人(桐蔭学園) -延メ 戸田優人(長崎南山) ○
- 【2回戦】
- 戸田優人(長崎南山) 延メー 川上正育(広島皆実) ×
- 阿賀大和(育英) 延メー 水口快(長崎南山) ×
- 【1回戦】
- 戸田優人(長崎南山) コメー 大森伯(高知商業) ×
- 水口快(長崎南山) 延メー 永濱聡良(城北) ×

読み物(1)・・・剣豪「昭和の剣聖：持田盛二範士」・・・「剣道と気品」 (現代剣道百家箴より)

剣道範士十段 持田盛二範士(1885-1974) 「剣道と気品」

剣道を修行する上で、種々の目標を立てることができようと思う。昔から「大強速軽」とあるが、これなども誠によい教えで、大きい、強い、速い、軽妙な剣、それぞれ修行の目標となるものである。

すなわち、この意味から「気品」ということも剣道修行上の一目標になろうかと思う。強いということももちろん重要なことであるが、強いだけでは物足りない。「強い剣道」であるとともに「気品のある剣道」でありたいものである。

あの人の剣道に「気品」があるとか無いとかは誰にでも自然に感じられるものであるが、然らばその気品とはどんなものかという段になると、容易に謂いあわし難い。気を花に譬えれば、気品はその香りのようなものではあるまいか、あるいは心を光になぞらえれば、気品はその映ろいのようなものではあるまいかと思う。

花鮮やかならざれば、薫りを得がたく、光明らかならざれば、その映ろいを望みえないと同様に、気品は正しい心、澄んだ気から、自然に発する、得も言われぬ気高さである。何事によらず、真剣になっている時ほど、気高いものはなく、三昧の境地、無念無想の境地に入りこんだときほど気品のあるものはない。結局、真剣を離れて気品は得られぬものである。一本の稽古もいやしくもせず、ただ真剣、ただ一心、その心掛けがあつたら求めずして上達し、求めずして「気品」のある稽古となるは請け齋戒沐浴、神の御前に出ずるが如き厳肅な気持ちをもって、日々の稽古を真剣に励みたいものである。「端正」ということも気品を養う上に大切な要素の一つである。心が端正でなければ気品は生まれえない。形が端正でなければ気品は添わない。いたずらに勝敗に拘泥する時、品が悪くなる。私心、邪念にとらわれて、稽古に無理がある中は気品が添わない。剣道は「礼に始まって礼に終わる」といわれるが、礼儀を離れて気品はない。「強さ」と「気品」の両者をあわせ得たいものである。

